

平成 30 年度事業報告書

I	事業の実施概要	
	(1) 助成事業	2
	(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～	3
	(3) 制作者フォーラムの開催	5
	(4) 定期刊行物の刊行	6
	(5) ホームページ等による広報	6
	(6) 資産運用検討委員会の開催	7
II	処務の概要	
	(1) 役員、評議員等に関する事項	8
	(2) 理事会および評議員会に関する事項	9
III	付属明細書 (資料 1～4)	

平成 30 年度事業報告書

I 事業の実施概要

平成 30 年度は超高精細映像による 4K・8K 本放送が 12 月にスタートし、映像表現・放送文化の世界に新たなページが加わる記念すべき年となった。また、ネットを経由した映像配信サービスが急速に普及し、存在感を高めているなかで、フェイクニュースなどを巡って放送の役割を再認識しようとする動きもみられる。

放送文化基金は、このように放送をとりまく環境が変わりゆく時代において、放送はどうあるべきか、そして視聴者に何を伝えていくべきかを念頭に置きつつ、計画した事業の着実に効果的な実施に努めた。

助成事業は、申請限度額の引上げを実施するとともに、ネット社会が進行して多様な情報が錯綜するなかで、『放送の役割・在りよう』を大局的な視点から調査・研究するプロジェクトからの申請を募集した。また、引続き解散した東京ケーブルビジョンから受入れた寄付金を技術開発の助成金の一部に活用した。

表彰事業は、放送文化基金賞贈呈式のイベントとしての質的充実を図りつつ、視聴者に感銘を与え、放送文化の発展と向上に寄与した優れた番組の表彰に努めた。

制作者支援活動事業は、各地の実行委員会との共催による制作者フォーラムを毎年開催の「北海道・東北地区」、「愛知・岐阜・三重地区」（昨年度より開催）、「九州・沖縄地区」に隔年開催の「北陸・長野、新潟地区」、「中国・四国地区」が加わり、初の全国 5 地区で開催し、系列や地域の枠を超えた交流の場を若手制作者等に提供する地域の拡大を図った。

(1) 助成事業

ア 平成 30 年度助成

平成 30 年度助成要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の 2 分野を対象に公募を行った結果、82 件の申請があり、助成審査委員会の審査と理事会の審議を経て、最終的に 34 件、5,759 万円の助成を決定した。申請および採択結果は、次の通りである。

(単位 万円)

区 分	申 請		採 択	
	件 数	金 額	件 数	金 額
技 術 開 発	27	8,733	12	3,559
人 文 社 会 ・ 文 化	55	8,624	22	2,200
合 計	82	17,357	34	5,759

(助成対象一覧 資料 1)

今回より、助成の申請限度額を従来の 1 件あたり 300 万円から 500 万円に拡大した。また、審査をより一層厳正なものとするため、審査委員が申請者と直接利害関係にある案件については、その旨を審査資料に明記のうえ、その申請者の審査では発言を控えることとした。さらに審査の観点を審査委員全員で共有するため「審査の観点」をあらためて作成した。この「審査の観点」については当基金のホームページ上でも公開することとした。

助成金贈呈式は平成 31 年 3 月 5 日に開催し、目録贈呈式と懇親会を実施した。また、目録贈呈式に先立ち、技術開発部門では九州大学教授の安田琢磨氏による「次世代ディスプレイへの応用を指向した高性能有機 LED の研究開発」、人文社会・文化部門では上智大学教授の前嶋和弘氏による「アメリカ公共ラジオ『NPR』の研究：質の高い政治情報への希求とその課題」に関する研究報告会を開催した。

イ 平成 28 年度助成事業の実施報告

平成 30 年 10 月～11 月に開催した其々の審査委員会で、平成 28 年度に助成した技術開発 12 件、人文社会・文化 29 件の実施報告（成果報告・平成 30 年 6 月末締切）について、一件ずつ内容の評価を行った。

(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア 第 44 回放送文化基金賞

平成 29 年度中に放送された優れた放送番組（番組部門）と、主にその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ（個人・グループ部門）を対象に、平成 30 年 4 月～5 月に開かれた各部門、各分野の専門委員会、審査委員会を経たのち、理事会で計 29 件を決定した。

応募・推薦および表彰結果は次のとおりである。

部 門	領 域	応募・推薦数	表彰数	備 考
番組部門	テレビドキュメンタリー	85	5	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 3
	テレビドラマ	54	4	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 2
	テレビエンターテインメント	77	4	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 2
	ラジオ	46	3	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 1
	個別分野	—	6	番組部門受賞作品から選定
個人・グループ部門	放送文化	15	4	—
	放送技術	9	3	—
合 計		286	29	

(受賞一覧 資料 2)

番組部門の賞金は最優秀賞 100 万円、優秀賞 50 万円、各奨励賞 30 万円、個別分野賞 20 万円。また、個人・グループ部門の賞金は 30 万円。

最優秀賞を受賞した番組は、テレビドキュメンタリー番組が『BS1スペシャル 父を探して 日系オランダ人 終わらない戦争』（椿プロ、NHKエンタープライズ、NHK）、テレビドラマ番組が『金曜ドラマ アンナチュラル』（ドリマックス・テレビジョン、TBSテレビ）、テレビエンターテインメント番組が『クレイジージャーニー』（TBSテレビ）、ラジオ番組が『SBSラジオギャラリー 幸せのカタチ ～本当の親子 本物の親子～』（静岡放送）である。

個人・グループ部門では、放送文化が4件、放送技術が3件受賞した。放送文化基金賞の贈呈式と懇親パーティは、7月3日にホテルオークラ東京で開催した。

イ 他の賞への参加

ABU（アジア太平洋放送連合）番組コンクール、第45回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール、「創作ドラマ大賞」に参加した。

ABU番組コンクールの授賞式は、平成30年10月4日にトルクメニスタンのアシガバートで行われ、スポンサーの一員として賞金を贈呈した。

「日本賞」は、平成30年11月9日に授賞式が行なわれ、「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『命～自殺を止めるために』（メキシコ）に対して放送文化基金賞を贈呈した。なお、第44回（平成29年）の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞した『理想郷への手紙』（ミャンマー）は、番組として完成し、第45回日本賞コンクール開催期間中に上映会が行われた。

日本放送作家協会とNHKが主催する「創作ドラマ大賞」について、第43回「創作テレビドラマ大賞」の贈賞式は平成30年11月16日に行われ、大賞の『ゴールド!』（鳴尾 美希子 氏）に賞金50万円を贈呈した。第47回「創作ラジオドラマ大賞」の贈賞式は平成31年3月22日に行われ、佳作の4作品（大賞受賞作品なし）に賞金を贈呈した。

（表彰結果 資料3）

(3) 制作者フォーラムの開催

NHK、民放、制作プロダクション等、組織の枠を超えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的に全国5地区で開催している。

平成30年度は、初の全国5地区開催となり、現地実行委員会と共催して、ミニ番組コンテストと実行委員会の企画によるパネルディスカッションや講演会が行われた。

なお、全国5地区のうち北信越地区と中四国地区は原則隔年開催となっている。

○北日本制作者フォーラム in さっぽろ（北海道・東北地区）

＜北海道・東北の全民放とNHK 計40局＞

日 時 平成30年10月26日（金）

会 場 STV（札幌テレビ放送）ホール／札幌市

参加者 約50名

○北信越制作者フォーラム in かなざわ（北陸・長野、新潟地区）

＜北陸・長野、新潟の全民放とNHK 計22局＞

日 時 平成30年12月15日（土）

会 場 NHK金沢放送局 ハートプラザ／金沢市

参加者 約70名

○愛知・岐阜・三重制作者フォーラム in なごや（愛知・岐阜・三重地区）

＜愛知・岐阜・三重3県の全民放とNHK 計10局＞

日 時 平成30年12月14日（金）

会 場 NHK名古屋放送局 R3スタジオ／名古屋市

参加者 約130名

○中四国制作者フォーラム in こうち（中国・四国地区）

＜中国・四国の全民放とNHK 計 32 局＞

日 時 平成 30 年 11 月 9 日（金）

会 場 ザ クラウンパレス新阪急高知／高知市

参加者 約 50 名

○九州放送映像祭&制作者フォーラム（九州・沖縄地区）

＜九州・沖縄の全民放とNHK、計 35 局＞

日 時 平成 30 年 12 月 1 日（土）

会 場 NHK福岡放送局 よかビジョンホール／福岡市

参加者 約 110 名

さらに、平成 31 年 2 月 16 日（土）に東京で全国制作者フォーラム 2019 を開催し、上記 5 地区のミニ番組コンテストで入賞した作品の上映とゲストのベテラン制作者による意見交換、トークセッション『テレビはもうすべてをやり尽くしたのか？』を実施した。

（４）定期刊行物の刊行

平成 30 年 4 月に助成対象の研究・事業の紹介、研究報告会と全国制作者フォーラム 2018 の概要などを掲載した広報誌「放送文化基金報」No. 88 を刊行。平成 30 年 9 月には放送文化基金賞の受賞者インタビューなどを掲載した No. 89 を刊行した。

（５）ホームページ等による広報

ホームページでは事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開と基金のPRに努めた。

<日本語版内容>

助成決定および成果報告／助成対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧／助成・放送文化基金賞WEB 申込等システム／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿／基金の活動を親しみやすい形で紹介する読み物（読む・楽しむ） 等

<英語版内容>

助成の募集案内、助成対象一覧、放送文化基金賞の受賞一覧（平成30年度より新設）、日本賞・ABU賞への参加について 等

（6）資産運用検討委員会の開催

ア 目的等

資産運用の専門性をより向上させるための諮問的機関として設置しており、平成30年9月と平成31年1月に開催した。

イ 主なテーマ

- ・国内外の経済政策や金利・為替等の見通し
- ・債券市場や保有債券の分析、資産運用方針の検討等

ウ 構成委員

中西 一博	（大和住銀投信投資顧問㈱ 法人部長）
高瀬 拓	（大和住銀投信投資顧問㈱ 法人部次長）
高橋 泰洋	（大和住銀投信投資顧問㈱ シニア・エコノミスト）
森 幸嗣	（大和住銀投信投資顧問㈱ 国内債券運用部付部長）
松原 克美	（放送文化基金会計顧問・公認会計士）
清水 孝雄	（放送文化基金監事・TBS社友）
田中 宏暁	（放送文化基金監事・日本放送協会経営企画局長）

(幹事)

西村 睦生 (放送文化基金専務理事)

II 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項

ア 役員・監事の選任等

(ア) 第 22 回評議員会(平成 30 年 6 月 21 日)において、西村 睦生氏が新たに理事に就任した。また、平林(田中) 宏暁氏が新たに監事に就任した。なお、第 22 回評議員会後に開催した第 44 回理事会において、西村理事は専務理事に選定された。

西村 睦生 氏 (元日本放送協会 仙台放送局長)

平林(田中) 宏暁 氏 (日本放送協会 経営企画局長)

(任期 いずれも前任者の残任期間となるため、平成 30 年 6 月 21 日から 2019 年 6 月の定時評議員会まで)

なお、崎元 利樹専務理事は平成 30 年 6 月 21 付、松坂 千尋監事は平成 30 年 6 月 20 日付で退任した。

(イ) 専務理事の報酬について

第 22 回評議員会において、新任の専務理事の報酬については現行と同額としたいとの説明を受け、定款第 19 条第 2 項 (2) に基づき承認した。

2019 年 3 月 31 日現在の役員、評議員、審査委員は、資料のとおりである。

(役員、評議員、審査委員一覧 資料 4)

(2) 理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

開催年月日	主 な 議 案
平成 30. 6. 5 (第 43 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 29 年度事業報告および決算について ・ 経理規程の改正について ・ 役員候補者の推薦について ・ 専務理事の報酬について ・ 第 44 回「放送文化基金賞」表彰対象について ・ 平成 30 年度「助成要項」について ・ 積み立て休暇制度の新設について ・ 育児休業等に関する規程の改正について ・ 管理職給与支給規程の制定について ・ 契約職員就業規則の改正について
平成 30. 6. 21 (第 44 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専務理事の選定について
平成 30. 7. 27 (第 45 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作者フォーラム規程の改正について ・ 永年勤続表彰に関する規程の制定について ・ 助成技術開発審査委員会 専門委員の委嘱について
平成 30. 10. 5 (第 46 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 23 回評議員会の開催について ・ 資産運用規程の改定について ・ 事務局職員の採用について ・ 平成 30 年度事業活動収支 施行見込みについて

平成 30. 12. 4 (第 47 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度予算編成の考え方について ・ 第 45 回放送文化基金賞「表彰実施細則」について ・ 技術開発審査委員会 専門委員の委嘱について
平成 31. 2. 8 (第 48 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 24 回、第 25 回評議員会の開催について ・ 平成 30 年度助成の実施について ・ 設立 50 周年事業積立金規程の制定について ・ 2019 年度事業計画および収支予算の編成について ・ 2019 年度資産運用計画について ・ 放送文化基金賞 審査委員会専門委員の委嘱について ・ 平成 30 年度収支決算見込みについて

イ 評議員会

開催年月日	主 な 議 事
平成 30. 6. 21 (第 22 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 29 年度事業報告および決算について ・ 第 44 回「放送文化基金賞」選考結果について ・ 役員の選任について ・ 専務理事の報酬について
平成 30. 12. 4 (第 23 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30 年度収支見通しおよび 2019 年度予算編成方針について ・ 事業の執行状況について
平成 31. 3. 7 (第 24 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度事業計画と収支予算の編成について ・ 平成 30 年度助成の実施について ・ 事業の執行状況について

Ⅲ 付属明細書 (資料 1~4)